

畫家で、鹿島郡七尾に住し、長谷川派の畫を能くしたといふ。

ハセガハナホユキ 長谷川尚之 又尚に作る。一諱は元常。通稱友輔。準也。準左衛門。字は子華。北固又は獨助と號した。父は加賀藩の歩士與右衛門雅智。享保十九年を以て生まれ、學を中西錫眞に受け、四十餘歳老臣村井氏の教授となり、安永十年召されて藩の儒者となり、天明五年新知百石を賜ひ、寛政四年明倫堂の助教に任じ、五年都講に進み、享和二年薨め、文化九年六月十七日七十九歳を以て歿した。

ハセガハノフハル 長谷川信春 通稱久藏。等伯の子で、父の畫風を學んだ。七尾町舊記に『等陸信春、等伯長子、法諱道傳、文祿二癸巳六月十五日卒、行年二十六歳。』とあるが、現に羽咋郡一宮寺家の正覺院に藏する十二天の像には藤原長谷川信春二十六歳筆とあり、同郡上甘田村妙成寺の涅槃像には長谷川信春・卅歳の三顆の印があるから、七尾舊記の記載は正しくない。養鑑に元和二年四月二日四十七歳とあるのが、眞實かも知れぬ。

ハセガハヒデモリ 長谷川秀盛 一向一揆の首領で、通稱を勘十郎といふた。天正四年八月廿一日附下間刑部卿法眼宛の訴狀連署中にその名が見える。

ハセガハヤソザエモン 長谷川彌三左衛門 初め幸助。天明八年父安兵衛の遺知二百石を襲ぎ、寛政中閉門を命ぜられ、後に御免、七年十二月二日不行狀によつて知行を召放された。

ハセガハユウ 長谷川猷 通稱源右衛門。準左衛門尚之の子。文化九年遺知百石を受け、

ハセ—ハタ

組外に列し、御近習番となり、天保二年南御土藏奉行に轉じ、十三年五十石を加へて百五十石を領した。猷は柿園と號し、經を古賀精理に學んだが、その勸告によつて西洋窮理の學を志し、後本多利明に就き、頗る外國の事情に通じ、直徑五尺餘の地球儀を作り、之を門側の丑成閣に垂下して地理の研究に便じ、又救荒新策を刊行して時務に資し、テリアカの藥を製して之を發賣した。嘉永二年歿。

ハセガヤチカノン 長谷ヶ谷内觀音 鹿島郡小田中の長谷ヶ谷内に在る小堂である。

ハセカンノン 長谷觀音 ↓イシウラジンジャ 石浦神社。

ハセキ 巴石 ↓ノトヤハセキ 能登屋巴石。

ハセジ 長谷寺 金澤本多町なる舊石浦觀音の別當所で、眞言宗に屬し、寛永八年の頃は石浦山長谷寺と記されるが、正保二年には長谷山慈光院となつて語り、その間に改稱したものと見える。明治元年神佛混淆禁止の後石浦神社となつた。

ハセダ 長谷田 江沼郡山中谷に屬する部落。江沼志稿に、この村領に金掘穴の跡があると記される。

ハセダガハ 長谷田川 江沼郡長谷田領の高松平から流出し、嶋の瀬といふ所で大聖寺川に注ぐ。

ハセベンジャ 長谷部神社 鳳至郡穴水大町に長谷部信連の木像を安置する影堂があつたが、寶曆五年十二月長家の請に依り、京都吉田家の執奏を経て武健神社の號を賜はり、文政五年八月更に武健明神と稱すること許された。能登遊記に『抵穴水。入山數

町。詣來迎寺。記長公信連之寺也。有祠堂。榜曰武健神社。』と記するが、本社は元來來迎寺が長家の祈願所であつた爲そこに置かれたもので、神社が起つてから來迎寺を別當として附屬せしめたものでない。明治元年神佛混淆禁止の後社寺の境界を分かち、六年七月長谷部神社と改稱した。

ハセノフツラ 長谷部信連 通稱三郎又は九郎。爲連の子。久安三年正月十六日遠江國長邑に生まれ、後に大和に移り、遂に出でて朝廷に仕へ、功を以て左兵衛尉に任ぜられた。治承中以仁王の高倉宮を脱した時、信連留つて敵を防ぎ、捕へられて伯耆に謫せられ、次いで安藝に住した。既にして文治二年四月

信連鎌倉に至り、初めて將軍源頼朝に謁したに、頼朝は前年信連が平氏と戦つた功を賞して、御家人の列に加へ、能登の地頭職に補した。之に就いては今その後裔長氏の家に、頼朝の下文といふものがあつて、信連に文治二年六月廿三日能登國上日下日越蘇八田加島・與木・熊木・長濱・神戸の諸郷を宛行ふといふことを記してあるが、この文書は原本でもなく、郷名も和名抄に倣つたものと見えて、甚だ訝しい。且つ信連の居址は鳳至郡河原田郷山岸に在るといふから、能登郡を領したとは信じられぬ。思ふにこれは、藩政の初長氏が鹿島半郡を領した後に生じた家傳であらう。信連の死は、東鑑に『建保六年十月廿七日丙寅云々。今日左兵衛尉長谷部信連法師於能登國大屋庄河原田卒。』とある。

ハセノフツラキ 長谷部信連記 一冊。別名を信連記ともいふ。長谷部信連の高倉宮で勇名を顯したことから初り、その子孫長氏が

が前田氏に歸服した後、連頼の時に所謂浦野騒動が起ることまでを記してある。此の書二種あつて、その一種は餘程修飾が加へられてゐる。著者は何れも明らかでない。

ハセノフツラノハカ 長谷部信連の墓 鳳至郡山岸の地内に屬し、墓と灰塚と二個の土饅頭が並んで居る。この地輪跡を距ること六〇〇米に過ぎず。信連の城址ある宅田に近い。能登名跡志に『輪跡は信連の領地にて、則爰に卒し有りし也。廟所は河井町川向の山岸村の、中頃十村役せし遠藤氏田地の中にあ

り。盆中は長家より代參、燈籠の手向等あり。』とある。

ハセベリエモン 長谷部理右衛門 能美郡小松の人。家名を長保屋と稱し、世々理右衛門を名とした。初代理右衛門は、寛治の頃宇治から茶樹を移して、この地方に於ける製茶業の鼻祖となつた。享保年中二代理右衛門業を繼いで遠く他國に抵り、良茶の製法を學び、其の製法を揚げ、八代理右衛門の時舊來の製茶改良を計り、能美郡製茶輸出の嚆矢をなした。是を以て明治二十年九月石川縣知事は理右衛門を追賞した。

ハセフツカ 芭蕉塚 ↓オキナツカ 翁塚。ノツチジンジャ 野蚊神社。ミウガンジ 名願寺。

ハタ 畑 江沼郡極樂寺村を畑村といふたとのことは、承應舊寫の式内等舊社記に、極樂寺村にある畑之堂といふものを、國史所載の治田若御子神社であるとの説を掲げ、極樂寺の舊名が畑村であつたと記するを初見とする。しかし極樂寺村は、平安朝の時の白山五院の一なる極樂寺があつた爲に起つた名であ

り。盆中は長家より代參、燈籠の手向等あり。』とある。